

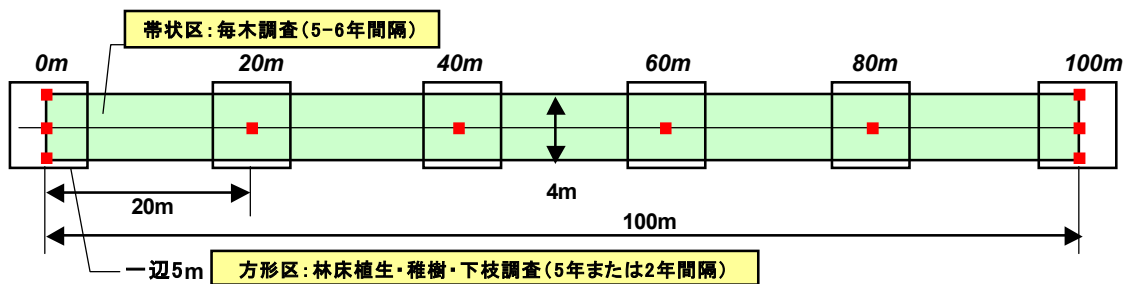
2025 (R07) シカ年度 植生モニタリング実施結果 (林野庁事業)

2025 年度に実施した調査業務のうち、林野庁担当の森林調査について、実施概要と結果速報をまとめた。第 4 期エゾシカ管理計画におけるモニタリング調査の構成を踏まえ、表-1 に調査のスケジュール一覧を示した。

表-1.第 4 期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画
(植生関連)

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ	第 4 期計画期間					基本的な考え方など
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	
V01	植生	環境省	簡易的な手法による指標種の回復量調査	知床岬	草原/	○	○	○	○	○	毎年実施 ルシヤは他調査(V03 等)と合わせて実施
				ルサ-相泊	草原	○	○	○	○	○	
				幌別-岩尾別	草原/	○	○	○	○	○	
				ルシヤ	草原/		○			○	
V02		林野庁	植生影響調査 (森林植生、草原植生)	知床岬	森林		○			△	林床・稚樹・下枝は 5 年に 2 回程度(△)、毎木は 1 回実施。変化の少ないルシヤ地区は 5 年間隔とする
				ルサ-相泊		△		○			
				幌別-岩尾別			○			△	
				ルシヤ					○		
V03		環境省		知床岬	草原	○		○		○	知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔程度
				幌別					○		
				ルシヤ			○			○	
V04		林野庁	植生保護柵を用いた回復過程調査	知床岬	森林		○				※エゾシカの影響からの回復が進んだため、長期的な変化を追うために 5 年に 1 回程度実施
				幌別			○				
V05		斜里町		幌別-岩尾別		○	○	○	○	○	
V06		環境省	エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	知床岬	草原	○		○		○	隔年程度。他調査 (V03 等) と合わせて実施
				ルサ-相泊							
V07		環境省		幌別-岩尾別							
V08	広域調査	林野庁	植生影響調査 (森林植生)	全域の越冬地 (標高 300m 未満)、標高 300 ~ 600m	森林	調査計画を全体に調整して毎年 10~20 区を調査					基本的に 5 年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調査区はモニタリング優先度を下げて予備調査区とする
						25 区	16 区	11 区	10 区		

※各調査区では【E02 土壌浸食状況広域調査】についても合わせて実施する。



広域森林調査の基本構成 (林床植生・稚樹・下枝については6 方形区内で実施)

広域調査：半島全体における植生の状況とエゾシカの影響の把握

知床半島全域をユニット区分して、森林植生に全 70 調査区を設定している。5 年間隔のモニタリングを基本として、100m×4m の固定带状区において立木・稚樹・下枝・林床植生について生育種とシカの食痕を調査している。

今年度は、ルシャ地区と遠音別地区の 10 区において実施した。ルシャ地区は個体数調整地の対照地としての位置づけで捕獲は実施されておらず、エゾシカの高密度状態が維持されている。遠音別地区は強い採食圧を受けて被度が低下していたが、10 年前からエゾシカ密度が低下し、植生の回復傾向が見られている。

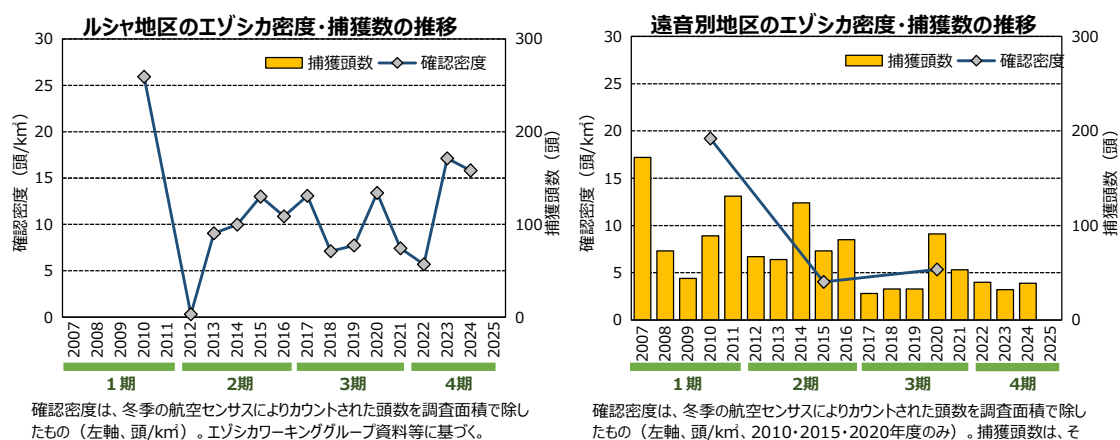


図-2. 対象地区のエゾシカ密度・捕獲数の推移

ルシャ地区と遠音別地区の稚樹・下枝・林床植生の結果を過去の推移と合わせて表-2 にまとめた。

表-2. ルシャ地区と遠音別地区の結果概要と推移

	下枝被度(%)					稚樹本数					ササ被度(%)					ササ高さ(cm)					林床種数				
調査区	2012 ~14	2015 ~16	2018	2020	2025	2012 ~14	2015 ~16	2018	2020	2025	2012 ~14	2015 ~16	2018	2020	2025	2012~14	2015~16	2018	2020	2025	2012 ~14	2015 ~16	2018	2020	2025
ルシャ地区																									
S02-1	0.57	0.14	0.17	0.06	0.06	0	0	0	0	0	19.2	20.8	17.5	19.8	19.8	49.8	52.8	43.7	45.7	46.8	83	97	84	99	90
S02-2	0.12	0.00	0.00	0.08	0.12	0	0	0	0	0	91.7	95.0	92.5	98.3	82.5	137.5	147.7	153.7	148.5	136.7	44	48	43	37	32
S02-3	0.00		0.02	0.01	0.17	0		0	1	1	0.2		0.0	0.2	0.0	8.0		20.0	15.0		81		91	96	76
S02-4	0.00		0.13	0.06	0.06	0		0	0	0	0.0		0.0	0.0	0.0	13.0		24.0	4.0		50		54	43	40
S02-5	0.17		0.02	0.07	0.02	0		0	1	0	30.9		17.5	13.4	1.4	36.3		36.0	27.8	18.3	66		60	58	78
S02-6	0.37		0.02	0.17	0.29	0		0	0	0	14.5		17.5	15.8	4.8	38.0		54.5	46.3	48.8	56		41	46	39
遠音別地区																									
S08-1	0.00			0.67	0.78	0			3	4	1.4			0.7	2.0	17.5			28.8	50.3	72			72	68
S08-2	0.01			0.07	0.57	0			12	10	25.0			12.5	14.2	65.4			77.8	73.3	59			53	44
S08-3	0.00			1.85	2.45	3			2	4	11.5			12.2	9.2	56.3			65.8	58.2	56			54	39
S08-4	0.00			1.67	1.68	15			28	40	5.5			9.3	10.3	28.2			68.0	50.7	69			62	56

ササ被度はルシヤ地区では1地区（S02-2、オクヤマザサ）で82%と高かったが、それ以外の調査区では20%未満で推移してきており、やや低下傾向にあった。遠音別地区ではササ類はほとんどないが、わずかに増加する傾向がある。



S02-2 の林床



S08-1 の林床

広葉樹の下枝や稚樹は、ルシヤ地区ではほとんど見られないまま推移している。遠音別地区では回復傾向で、2025 年もほとんどの調査区で増加していた。増加している稚樹のほとんどはシウリザクラやキタコブシなどの萌芽由来のものだった。遠音別地区では毎木調査で確認される広葉樹小径木（胸高直径 5cm 未満）の本数も増加傾向にあった（特にキタコブシ・ホオノキ等）。

林床の嗜好種は S08-1 ではこれまでと同様に比較的多くが確認された。

各調査区の土壌流出状況については、これまで同様ほとんど流出は見られなかった。



S08-4 のシウリザクラ稚樹



S08-3 のキタコブシ萌芽



S08-1 の嗜好種エンレイソウ類・チシマアザミ

